

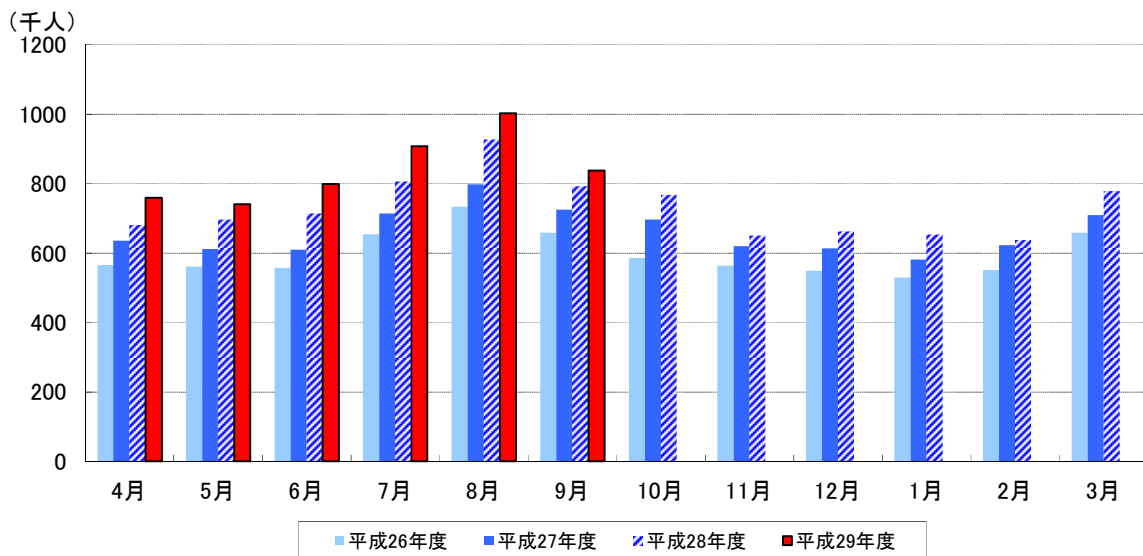
平成 29 年度上半期 沖縄県入域観光客統計概況

文化観光スポーツ部 観光政策課
平成 29 年 10 月発表

**平成 29 年度上半期は、504 万 6,100 人で過去最高を更新
対前年度 (H28) 比 +42 万 7,400 人、+9.3%**

入域観光客数 (国内+外国)

■月別入域観光客数の推移 (平成 26 年度～平成 29 年度)



■平成 29 年度上半期入域観光客の状況 (平成 28 年度との比較)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
平成29年度	759,200	740,600	798,800	907,900	1,002,500	837,100	5,046,100
平成28年度	681,500	697,100	714,400	805,800	926,900	793,000	4,618,700
増減数	77,700	43,500	84,400	102,100	75,600	44,100	427,400
増減率	11.4%	6.2%	11.8%	12.7%	8.2%	5.6%	9.3%

■平成 29 年度上半期の概況 (総括)

平成 29 年度上半期の入域観光客数は、504 万 6,100 人となり、対前年同期比で 42 万 7,400 人増加、率にして 9.3%増となった。月別では 8 月に初の 100 万人台を記録し、単月の過去最高を更新するなど好調に推移した。9 月までに 60 か月連続で対前年同月を上回るとともに、47 か月連続で当該月の過去最高を上回る客数を記録した。

前年度上半期と比べて増加した主な要因は、次のとおりと考えられる。

- 官民一体となった誘客プロモーションの効果
- 国内航空路線の拡充
- 海外航空路線の拡充及びクルーズ船の寄港回数が増

国内観光客についての動向

■平成 29 年度上半期国内観光客の状況（平成 28 年度との比較）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
平成29年度	541,600	523,800	537,300	615,200	726,800	603,600	3,548,300
平成28年度	519,300	490,600	498,500	588,500	694,900	589,600	3,381,400
増減数	22,300	33,200	38,800	26,700	31,900	14,000	166,900
増減率	4.3%	6.8%	7.8%	4.5%	4.6%	2.4%	4.9%

■国内観光客の概況

例年に比べると台風の影響が少なかったこと、北九州－那覇路線の新規就航等を含む航空路線の拡充（※）に加えて、羽田・伊丹－那覇路線や羽田、関西及び名古屋から離島への直行便も好調であったこと等から、各方面ともに好調に推移している。

下半期は、景気のゆるやかな回復基調が続いていることや、引き続き航空路線の拡充が予定されていること等から、今後も好調に推移することが期待できる。

※新規就航のあった路線：名古屋－宮古、北九州－那覇路線

主な増便のあった路線：羽田－那覇、羽田－宮古、伊丹－那覇、神戸－那覇路線

外国人観光客についての動向

■平成 29 年度上半期外国人観光客の状況（平成 28 年度との比較）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
平成29年度	217,600	216,800	261,500	292,700	275,700	233,500	1,497,800
平成28年度	162,200	206,500	215,900	217,300	232,000	203,400	1,237,300
増減数	55,400	10,300	45,600	75,400	43,700	30,100	260,500
増減率	34.2%	5.0%	21.1%	34.7%	18.8%	14.8%	21.1%

■外国人観光客の概況

昨年から引き続き訪日旅行人気が続いていることに加え、沖縄発着航空路線が拡充（※）したことや、クルーズ船寄港回数が大幅に増加したこと等から、各方面ともに好調に推移している。国籍・地域別では、韓国や香港の伸びが顕著となっている。

下半期は、引き続きクルーズ船の寄港回数増が予定されていること等から、前年度以上の入込が期待できる。

※新規就航のあった路線：西安－那覇、大邱－那覇路線

主な増便のあった路線：台北－那覇、ソウル・釜山－那覇、香港－石垣路線